

マイコプラズマが関与している可能性のある病気

血液疾患	呼吸器疾患	神経系疾患
溶血性貧血	喘息	筋萎縮性側索硬化症(ALS)
	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	多発性硬化症(MS)
リウマチ性疾患	肺線維症	脳膜炎
関節リウマチ	間質性肺炎	脳梗塞
精神疾患	肺炎(成人)	ギラン・バレー症候群
慢性疲労症候群	肺炎(小児)	
線維筋痛症		
アトピー性疾患 アレルギー性疾患	心血管系疾患	腎疾患
多形紅斑	血管炎	IgA腎症
スティーブンス・ジョンソン症候群	動脈炎	急性糸球体腎炎
	動脈硬化症	ネフローゼ症候群
	川崎病	

従来の診断薬でマイコ
プラズマ肺炎と診断さ
れていた部分

病巣感染を引き起こす細菌は多様で
が、扁桃、上咽頭ではマイコプラズマ感
染症

う歯、歯周病も病巣感染症の原病巣
であれば、それらが多く全身疾患に關
与しているとする説は全く不思議ではな
く、医科側も納得できる考え方となるの
です。「口の健康が全身に影響する」とす
るのではなく、「口に起きている病態は
上咽頭などで起きている病態と同じ」と
見なす方が妥当だということです。

チ「慢性疲労」「心血管系疾患」といった
歯の病巣感染、歯周組織の病巣感染と
いう捉え方であれば、扁桃、上咽頭など
と同様のアプローチが可能であり、これ
までは全く異なる医科歯科連携のコン
セプトが実現します。「病巣感染とい
う言葉になじみがないのなら、ペリオとい
う歯科医師がよく使う言葉を医師が借り
ればよい」(今井氏)とする意見もあります。

のです。

慢性上咽頭炎に伴う症状

炎症・慢性分泌液による症状

- ・咽頭違和感
- ・間質性肺炎
- ・後鼻漏
- ・肺線維症
- ・気管支喘息

関節痛による症状

- ・首凝り
- ・片頭痛
- ・肩凝り
- ・口腔内の違和感
- ・頭痛
- (歯の知覚過敏)
- ・頭重感

自律神経障害による症状

- ・めまい
- ・もたれ
- ・耳鳴り
- ・便秘
- ・胃部不快

病巣炎症としての二次疾患

- ・IgA腎症
- ・掌蹠膿疱症
- ・反応性関節炎
- ・乾癬
- ・早期のリウマチ
- ・慢性湿疹
- ・炎症性腸疾患

堀田修氏講演(4月21日:POIC研究会)資料より

「ムシ歯予防デー」の啓発ポスターから



戦前の「ムシ歯予防デー」で埼玉県歯科医師会が作成した啓発ポスターでは、「歯が悪いと全身に影響する」として、肺、脳、心臓、腎臓、消化器の図が描かれている。この背景には、病巣感染の考え方があった。しかし、50年代のアメリカで病巣感染説が否定されると、欧米では廃れてしまい、日本で細々と研究・臨床が続けられた。

近年、免疫機序の解明により、病巣感染説に新たな根拠が加わるようになってきている。

以前から、歯科医師向けに連携の在り方の見直しを訴えていた内科医の今井一彰氏(福岡県開業)らが強調するのは、「歯周病」など、歯とその周囲に限局される疾患という誤解を招く表現は不適切です。現在、腎不全で人工透析を受ける患者さんは日本全国で増えていますが、宮城県だけは新規患者が減少しています。これも堀田氏による病巣感染医療の成果ではないかと評価する見方もあります。

原理的には、エナメル質が細胞でないため感染症であるかどうかについて議論がありますが、う窩があれば、そこに病巣感染が生じている可能性があります。そしてそれが、他の病巣感染と同様、「血液疾患」「神経疾患」「呼吸器疾患」「アトピー」「リウマチ」など、歯周病だけではなく、う窩を伴うう蝕も病巣感染の高頻度部位と見なされています。

という考え方です。最も病巣感染が起こりやすいのは扁桃、歯とその周囲、上咽頭で、歯周病だけでなく、う窩を伴うう蝕も病巣感染の高頻度部位と見なされています。

工ナメル質が細胞でないため感染症であるかどうかについて議論がありますが、う窩があれば、そこに病巣感染が生じている可能性があります。そしてそれが、他の病巣感染と同様、「血液疾患」「神経疾患」「呼吸器疾患」「アトピー」「リウマチ」など、歯周病だけではなく、う窩を伴うう蝕も病巣感染の高頻度部位と見なされています。